

ふう けい き こう
風景紀行
乗鞍登山道
「太郎之助みち」
58
 飛騨森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

乗鞍登山道「太郎之助みち」

行者「常全」の功績

高山市内から眺める北アルプスの最南端に位置する乗鞍岳の広大な山裾に広がる森林帯が青屋国有林です。

青屋国有林のほぼ中央を東西に走る尾根には、池塘が点在する高層湿原「千町ヶ原」を經由し、乗鞍岳へ一本の「乗鞍青屋登山道」が開設されています。

この登山道、明治二十八年大道教の行者「常全」(往時二十二歳)が、約二〇〇キロの道程を独力で四十年を費やして開設したと伝えられています。道沿いには信者等の寄進により八十八箇所にて二体ずつ石仏が安置され、道標を兼ね登山者の安全を見守っていました。

「太郎之助みち」として復活

常全が開設した「乗鞍青屋登山道」も手入れができなかったことからいつしか廃道状態となっていました。

平成十年頃から十年程かけ旧朝日村と岐阜県は、青屋口から千町ヶ原までのコースを「太郎之助みち」として復活させ、奥千町ヶ原に避難小屋も建設しコース全般の整備を行いました。
 また、道しるべとなっていた石仏の見あたらない箇所もあったことから、「復活乗鞍青屋登山道八十八作戦」と銘打ち、ボランティアの協力を得て不明となっていた石仏を探し出し、当時の登山道を復活させました。

この道、登り始めは傾斜もきついコースとなりますが、サワラ・ヒメコマツ・ミズナラの天然林に覆われていることから、日射しも遮られ辛さも和らぎます。やがて最初の石仏に辿り着き大休止、石仏には寄進者の名前も刻み込まれており常全の遺徳も忍ばれます。汗も収まったところで次の石仏へ、これから先は登りも緩やかになりモミ・ダケカンバの森林帯を抜け標高二、二〇〇〜二、三〇〇メートルの千町ヶ原、奥千町ヶ原へと続きます。

千町ヶ原から奥千町ヶ原にかけては間近にそびえる乗鞍岳や北アルプスの峰々、石仏そして池塘や湿原植物も迎えてくれます。青屋集落からの日帰り登山ではここまでが精一杯かと思われず。

乗鞍岳には「乗鞍スカイライン」が開通しておりますが、先人たちが開きそのなごりの残る「太郎之助みち」、体力作りと癒しを兼ねた趣ある登山道です。

◆アクセス

- 公共交通機関は朝日町中心部まで、あと自家用車等の利用となります。
- 高山市内からは、青屋九蔵集落まで二十四キロ(車で四十分)、九蔵集落から登山口までは林道を徒歩で三キロ(約一時間)、登山口から奥千町ヶ原避難小屋までは八キロ(約六・五時間)、奥千町ヶ原避難小屋から乗鞍岳までは四・五キロ(約三時間)



奥千町ヶ原から望む乗鞍岳



避難小屋が整備された奥千町ヶ原



登山道脇の石仏群



奥千町ヶ原の池塘